

→ 昔、香椎に城があった？！

～ここにも遺跡～

東区香椎台
御飯ノ山城



老ノ山と立花山

東区にある香椎宮は、奈良時代に創建され、皇室とも縁の深い格式のあるお宮として、古くから人々の信仰を集めています。かつて、この香椎宮の北東側に「老ノ山」と呼ばれる山があったことをご存じでしょうか。現在は住宅街となっていますが、開発の際に行われた発掘調査によって、「老ノ山」には室町時代から戦国時代にかけて、立花城(※)の支城としての役割を果たした「御飯ノ山城」という山城が築かれていたことがわかりました。城は、山頂を平坦に削って曲輪を築き、尾根には敵の侵入を防ぐ堀切を作るなど、非常に堅固な作りであったことが確認できました。また、その南麓には屋敷が広がっていたこともわかりました。

今は開発によってすっかりその姿を変えてしまった香椎宮周辺ですが、発掘調査の成果を学び知ることによって、いつもの風景も違って見えてく
るかもしれません。

※ 立花(山)城：大友氏が立花山に築いた山城。戦国時代には、大友氏と大内氏、毛利氏との激戦の地となった。

→ 12・1月のイベント情報

12月

16日 埋蔵文化財センター考古学講座 第6回
「人骨からさぐる中世の博多」
講師：富岡 直人 氏 (岡山理科大)

1月

- 1日 市指定無形民俗文化財 宇田川原豊年獅子舞
場所：宇多神社 (西区宇田川原)
- 1日 市指定無形民俗文化財 今宿青木獅子舞
場所：八雲神社 (西区今宿上ノ原)
- 2日 市指定無形民俗文化財 金隈の鳶の水
場所：宝満宮ほか (博多区金の隈1)
- 7日 市指定無形民俗文化財 今宿上町天満宮鬼すべ行事
場所：今宿上町天満宮 (西区今宿3)
- 7日 市指定無形民俗文化財 今津十一日まつり
場所：登志神社 (西区今津)
- 13日 市指定無形民俗文化財 石釜のトビトビ
場所：石釜公民館から出発 (早良区石釜738)
- 14日 県指定無形民俗文化財 志賀海神社歩射祭
場所：志賀海神社 (東区志賀島)
- 20日 埋蔵文化財センター考古学講座 第7回
「近世都市博多の成立」
講師：宮野 弘樹 氏 (福岡市博物館)

福岡市経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理に関すること

文化財保護課 TEL:092-711-4666

史跡整備に関すること 史跡整備活用課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ「福岡市の文化財」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも
情報発信中！



Vol.12 2017年12月号

市内お正月行事あれこれ

今年も残すところ1か月となり、新たな年がやってきます。お正月は、多くの伝統的な民俗行事に触れることのできる機会です。

1日は宇田川原豊年獅子舞と今宿青木獅子舞。喜劇仕立ての獅子舞が繰り広げられます。2日は、蓑と笠を被ってトビの姿をした子供たちが家々をまわる金隈の鳶の水。子供たちの健康を祈願します。3日は、締め込み姿の男性が木製の玉をめぐって取り合う玉せせり。筥崎宮のものが有名ですが、実は今宿、姪浜、伊崎で同様の行事が行われています。7日は、稲藁で作った角と襷をつけた鬼が青年と押し合いながら町内をまわる今宿上町の鬼すべ。悪霊を退け、疫病を除きます。正月飾り等を焼く行事(ほうけんぎょうやどんど焼き等)もこの時期に行われることが多いようです。



金隈の鳶の水。
鳶たちには、
町内の家々で
水をかけられます。

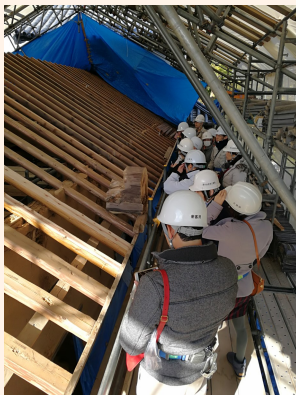
新たな年が実り多き年となるようお願いしながら、市内の身近な民俗行事をご覧になってみてはいかがでしょうか。各文化財の詳細については、本誌裏面の公開行事日程およびFacebook「福岡市の文化財」をご参照ください。

→ 多間櫓 保存修理工事のいま

～福岡城南丸多間櫓

特別公開ガイドツアーを実施しました～

現在、保存修理工事中の多間櫓において、11月23日に、多間櫓の保存修理工事の状況をお知らせする「特別公開ガイドツアー」を開催しました。8月に実施したツアーでは、小学生のみなさんに修理を体験していただきましたが、今回は、広く一般の方々に、普段は非公開の保存修理工事現場をご覧くださいました。



参加した皆さんは、多間櫓を多間櫓の屋根を見学される様子すっぽりと覆う工事用の素屋根内部に入り、屋根瓦と下地を取り外した状態の屋根を上から見学しながら、傷んだ部材の修理方法について説明を受けました。また、建物中央部分では、壁土が取り外されているため、普段は見ることのできない建物の構造を観察することができました。修理には、職人さんの技術がふんだんに活かされており、参加者からは多くの質問が出ていました。

あわせて、前回ご好評をいただいた工事で使用する瓦への記名会も開催しました。記名瓦は、櫓の補修瓦として使用させていただきます。

ありがとうございました。

→ 特別展「中世博多の暮らし」 公開中です！

まいぞうぶんかざい

埋蔵文化財センターでは、

今年度、出土した中世の博多の輸入陶磁器や生活用具などの資料2,138点が国の重要文化財に指定されたことを記念して、特別展「中世博多の考古学」を開催しています。現在、その第3弾として「博多

の暮らし」に焦点をあてた展示を行っています。台所・食卓・遊び・祈り・装い・ものづくりという6つのテーマを設けて、中世博多の台所事情や身だしなみ、当時流行していたスポーツ競技、信仰のあり方、金属製品やガラス製品の製作技術などといった、多角的な視点から中世博多の世界を解説しています。また、重要文化財の月替わり特別展示のコーナーも併せて設けています。

国の重要文化財に指定された品々を見学できる絶好の機会ですので、皆様のお越しをお待ちしております！

福岡市埋蔵文化財センターの最新情報はこちら↓

www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/



特別展 ポスター



月替わり特別展示
(12月)

まいぞうぶんかざい

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

→ 博多で見つかった江戸時代の窯跡 博多区 博多遺跡群

博多区冷泉町で江戸時代後半～幕末の窯跡が7基発見されました。



発見された窯跡

当時この地に住んでいた「中ノ子家」は、火鉢や七輪などの素焼き製品を多く生産していました。「中ノ子家」は、江戸時代後半になると、当時全国的に流行していた「伏見人形」を模した素焼きの人形をつくり始めます。これが現在の伝統工芸品「博多人形」の始まりとされています。

今回の調査では、窯の跡だけでなく、多種多様な素焼き人形の破片も発掘されました。一緒に出土した陶磁器などの年代から、そのほとんどが、まさに人形が作られ始めた江戸時代後半～幕末に製作されたものと考えられます。人形をつくるための「土型」も多くみつまっていることから、人形の成型から焼成まで行うことのできる「工房」のような場所であったと推定されます。素焼き人形の厚さが薄く均一であることや、製品をより高温で焼成できるよう窯の構造を工夫していることなどから、当時の博多の職人の高い技術力をうかがうことができます。